

# 第1回検討委員会の振り返り

---

第2回四国中央市ごみ処理施設整備検討委員会

令和5年7月24日

# 目次

---

- (1) 第1回検討委員会の振り返り**
- (2) 意見対応**

# (1) 第1回検討委員会の振り返り

■ 2023年6月30日（金） 13時30分～開催

・ 出席委員：10名（委員欠席なし）

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
1	石川委員	西条ブロックでの広域化・集約化及び市単独での燃料化処理方式の検討に至った背景を教えてください。	広域化の検討は、新居浜市・西条市が既に検討を始めていた枠組みに参加させて頂いた。市単独での検討は、令和3年にカーボンニュートラル協議会設立、真鍋淑郎博士が地球温暖化に関する研究でノーベル物理学賞を受賞する等、脱炭素に係る機運が高まったことを受けて検討することとなった。
2	篠原委員	三豊市で稼働中のトンネルコンポスト方式を採用した施設の状況を知りたい。	平成29年度より施設が稼働しているが、これまで破碎系等のトラブルが2回ほどあったことを把握している。それ以外で大きなトラブルがあったこともなく、問題なく稼働しているものと認識している。

# (1) 第1回検討委員会の振り返り

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
3	八鍬委員	従来のRDF等について、固形燃料の活用用途が限られ、現在、ほとんどの自治体が同方式から撤退している。利用先との長期契約を締結する等、利用先となる利害関係者含め調整が重要となる。	(ご意見のため回答なし)
4	高橋副委員長	燃料化処理方式の導入にあたっては、産業界との調整もしかり、単なるコストのみならず、リサイクルの推進等に向け、産官で両者にメリットがある関係を築いていく必要がある。	(ご意見のため回答なし)
5	石川委員	カーボンニュートラルの視点として、燃料化処理方式の採用は好ましいものであるが、一方、事業化の視点での製造品の利用方法等を考えていくことが重要となる。	(ご意見のため回答なし)

# (1) 第1回検討委員会の振り返り

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
6	高橋委員長	製紙業者のボイラ代替材について、実証等を行う予定があるのか。もしあるのであれば本委員会にてその結果を報告してもらいたい。実証を受け、燃料化に適・不適なごみを見定め固形燃料をいかに規格化できるかが事業化のポイントになる。	今年度、実証を予定している。なお、結果については、途中経過なりを報告させて頂く。 ⇒詳細はP 7
7	高橋委員長	現状の焼却施設で焼却しているごみ量を燃料化処理施設で処理することは可能なのか。また、広域化施設の方がエネルギーを有効活用できる可能性がないか。	燃料化処理施設は、本市ごみ量が処理できる施設規模を昨年度検討した。固形燃料及び炭化物の受入能性について、『受入は可能』といった事業者からの回答が昨年度の検討より得られている。エネルギーの有効活用についてはP 9
8	八鍬委員	災害廃棄物の処理に関して、衛生処理の観点から焼却処理が推奨されている。燃料化処理方式を採用した場合の災害廃棄物の処理に関して、事前に考えを整理しておく必要がある。	次回委員会にて報告させて頂く。 ⇒詳細はP 8

# (1) 第1回検討委員会の振り返り

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
9	八鍬委員	燃料化処理施設を整備した場合に発生する残渣を広域化施設で処理することについて、プラスチックの分別が行われていなければ環境省交付金の活用上、困難だと思われる。	県並びに新居浜市・西条市と継続した協議、また、民間への処理残渣の受け入れも併せて検討
10	篠原委員	広域化施設に関して、他市に整備することとなった場合、当市のごみを持ち込むことへご地元から反対が生じる可能性がある。20年間のごみ処理の担保等、可能なのか。市長が変われば行政方針も変わる可能性がある。	新居浜市・西条市と継続した協議を行う
11	高橋副委員長	事業途中で自治体間でのごみの受入を断られた事例も確認されている。	(ご意見のため回答なし)

# (1) 第1回検討委員会の振り返り

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
12	高橋委員長	災害廃棄物の処理は、市や県の災害廃棄物処理計画等に基づいて行われるものと理解している。	(ご意見のため回答なし) P 8に関連
13	高橋委員長	広域化と燃料化処理施設に関して、エネルギーや脱炭素の視点でどちらがどれほどメリットがあるかについて、示してもらいたい。	次回委員会にて報告させて頂く。 ⇒詳細はP 9
14	北村委員	三豊市の事例で確認したいが、塩素のコントロールはどのように行っているのか。	三豊市の施設は、固形燃料の原料を製造するまでであり、それ以降、民間産業廃棄物処理施設で産業廃棄物と混合して固形燃料を製造している。従って、塩素濃度は低くなる。
15	石川委員	広域化施設、市単独での焼却施設又は燃料化施設のいずれを選択することで貴市にとってどんなメリットがあるのかを示してもらいたい。	次回委員会にて報告させて頂く。

# (1) 第1回検討委員会の振り返り

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
16	村上委員	トンネルコンポスト方式は、現時点で1事例しかないとのことだが、今後、増えていく見込みはあるのか。	徳島県の小松島市・中央広域環境施設組合、滋賀県の彦根市等がトンネルコンポスト方式の導入に向けた各種検討を行っているところであり、今後トンネルコンポスト方式を採用する自治体は、増加する見込みである。
17	原田委員	議会でもこの会でもトンネルコンポストありきで進んでいくように思える。 焼却施設も候補の一つとして色々と方法はあると思うが、市民の事や金銭的なこと色々な情報の提供を受けながら検討したい。	委員会にて報告させて頂く。

- 番号6・8・13に関して対応結果を報告  
→ 他番号に対する対応結果は資料2以降で報告

## (2) 意見対応

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
6	高橋委員長	製紙業者のボイラ代替材について、実証等を行う予定があるのか。もしあるのであれば本委員会にてその結果を報告してもらいたい。実証を受け、燃料化に適・不適なごみを見定め固形燃料をいかに規格化できるかが事業化のポイントになる。	今年度、実証を予定している。なお、結果については、途中経過なりを報告させて頂く。

### ■ 燃料化施設における製造品の規格統一に係る検討

→本市では今年度にボイラー燃焼の実証試験を踏まえ規格統一の可能性を検討する。

#### (実証試験時の主な確認事項)

- ・ 燃焼時のデータ記録（炉内温度・排ガス性状等）
- ・ 保管、搬送時の状況（保管時の温度変化等）
- ・ 塩素含有率等の成分確認等

・・・9月試験予定

## (2) 意見対応

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
8	八鍬委員	災害廃棄物の処理に関して、衛生処理の観点から焼却処理が推奨されている。燃料化処理方式を採用した場合の災害廃棄物の処理に関して、事前に考えを整理しておく必要がある。	次回委員会にて報告させて頂く。

### ■ 災害廃棄物の処理に係る本市の考え方

- ① 燃料化処理施設を採用した場合は、不測の事態に備え、県内外の産業廃棄物処理事業者との処理に係る協定を締結する。
- ② 県内で大きな災害が生じた場合は、国・県の指導のもと、必要に応じて仮設焼却炉での災害廃棄物処理を行うこととする。また、県がえひめ産業資源循環協会と締結した協定に基づき県内民間事業者とも連携し、災害廃棄物の処理を行う。
- ③ 西条ブロックを始めとした周辺自治体との災害廃棄物処理に係る協定の締結を検討する。
- ④ 市内事業者との連携による災害廃棄物の処理を検討する。

## (2) 意見対応

番号	委員名	質疑内容	事務局回答内容
13	高橋委員長	広域化と燃料化処理施設に関して、エネルギーや脱炭素の視点でどちらがどれほどメリットがあるかについて、示してもらいたい。	次回委員会にて報告させていただきます。  脱炭素の効果は資料5で報告

### ■ 燃焼によって得られるエネルギー（想定）

#### [燃焼によって得られる発熱量kJ/年]

焼却施設（ストーカ方式を想定）			燃料化施設	
単独整備	広域化	広域化 （+中継施設）	トンネルコンポスト	炭化
$2.08 \times 10^{11}$	$6.94 \times 10^{11}$	$6.94 \times 10^{11}$	$2.12 \times 10^{11}$	$0.94 \times 10^{11}$

#### [発電量MWh/年] ※燃料化施設は単独焼却相当の発電機を想定して試算

焼却施設（ストーカ方式を想定）			燃料化施設	
単独整備	広域化	広域化 （+中継施設）	トンネルコンポスト	炭化
9,000	37,700 (12,560)	37,700 (12,560)	9,129	4,042